



本会記事

■広報委員会だより

第16回「おもしろ科学教室」（名古屋大学）での出展

2024（令和6）年1月8日（月）、名古屋大学において小学生を対象とした「おもしろ科学教室」が開催されました。このイベントは、本学会を含む5つの学会、大学及び協会等、あわせて9団体が共催の形で毎年実施しており、今年で16回目を迎えました。規模を抑えつつもコロナ禍以前と同様な形態で、各団体がそれぞれの分野を子供たちにわかりやすく伝えられるように工夫を凝らした講演会、工作教室、ブース展示を行いました。当日は、約230人の親子連れが来場し、子供たちは講演を聞いたり、科学工作をしたりする合間に、興味をもった展示ブースに立ち寄って、楽しんでいました。日本アマチュア無線連盟によるアマチュア無線の交信体験や豊田工業高騰専門学校によるサッカーロボットなどの展示もあり、子供たちの関心を集めていました。

本学会では、プラズマと核融合に関連した科学技術を紹介、体験するブースとして、プラズマボールや電子レンジを用いた「プラズマ放電実験」、真空度を変化させて放電させる「注射器型放電実験」、超伝導体を使った「磁気浮上列車」の展示を行い、プラズマおよび核融合についてのクイズコーナーを設置しました。

当展示を見に来てくれた子供たちは、プラズマボールの中の揺らめく光の筋が、自分の差し出す手に集まってくる様子を見て楽しんでいました。また、ネオンを詰めた放電管が電子レンジの中で鮮烈な赤い色を放つ様子を歓声を上げていました。注射器型の放電実験装置では、圧力を下げて放電を開始させるために、がんばってピストンを引く姿が見られました。磁気浮上列車の展示では、さかさまになっても落ちずに素早くレールの上を列車が走る様子を不思議そうに、また真剣な表情で観察していました。このような展示を通して、まずは不思議だなと興味を持って、子供たちがいろいろな視点から考えるきっかけにいただければと思っています。

本イベントには、広報委員会から大野哲靖（名大）、兒玉了祐（阪大）、田中宏彦（名大）、中村圭司（中部大）、吉沼幹朗（核融合研）と事務局から杉山恵子が参加しました。このように、広報委員会では、広く社会に向けた情報発信をめざし活動を行っています。広報活動に関するご意見や新しい展示物の案をお持ちの方がいらっしゃれば、ぜひ委員会までお寄せください。

今回の出展にあたり、愛知工業大学高井吉明先生はじめ実行スタッフの方々には大変お世話になりました。また、展示物については、核融合科学研究所様よりご提供いただきました。ご協力に感謝申し上げます。

（広報委員会）



このガスは何色に光るのかな？（電子レンジを用いたプラズマ放電実験）。



プラズマボールに蛍光灯を近づけたら光ったよ（プラズマ放電実験）。



列車が浮いたよ。逆さまにしても落ちない！（超伝導体を使った磁気浮上列車）。